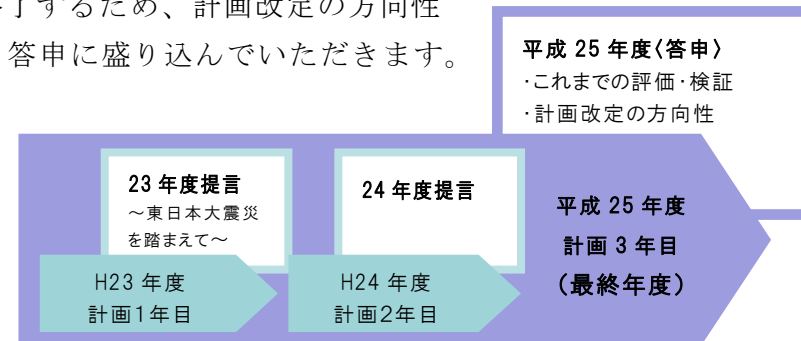


## 新たな「横浜市環境管理計画」の改定の方角性について

### 1 趣旨

平成 23 年 4 月に策定した新たな「横浜市環境管理計画」は、プロセス管理を基軸に据えることを役割の一つとしており、計画の進捗管理として、環境創造審議会から、平成 23、24 年度にそれぞれ、評価・提言をいただきました。平成 25 年度は、これらの提言と合わせて、これまでの取組への評価・検証を総合的に取りまとめ、答申をいただきます。

また、新たな「横浜市環境管理計画」は、平成 25 年度をもって計画期間（事業の実施に関する視点での目標）を終了するため、計画改定の方角性についてもご議論いただき、答申に盛り込んでいただきます。



### 2 計画改定の基本的な考え方

(1) 現行計画の施策体系に基づき、必要な改定を行います。

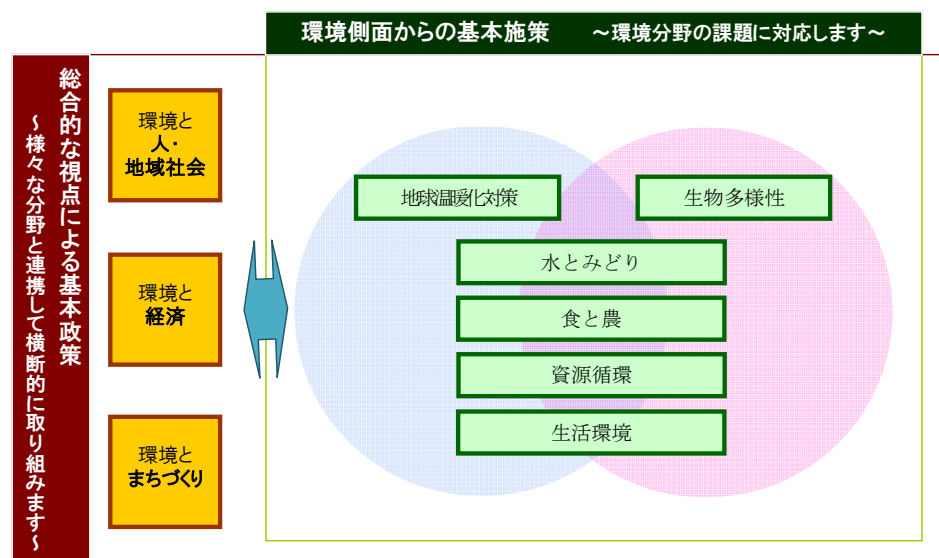
#### 現行計画の概要

##### 《計画期間》

- 横浜市基本構想(長期ビジョン)と合わせた中長期的な視点での目標：平成 37 年度まで
- 事業の実施に関する視点での目標：平成 25 年度まで

##### 《計画の特徴》

- 地球温暖化対策及び生物多様性の取組を市の環境行政の基軸として位置付け
- 環境行政の基盤となる 6 つの環境側面からの基本施策と 3 つの総合的な視点による基本政策で環境行政を総合的に推進
- 取組状況の把握、外部からの点検・評価、次年度以降の取組への反映を行う進行管理(プロセス管理)を実施



(2) 主に以下の 3 点を反映させます。

#### ア これまでの提言

##### 【環境創造審議会 平成 23 年度提言～東日本大震災を踏まえて～】

東日本大震災を踏まえた、これからの環境行政のあり方において重視すべき視点など

##### 【環境創造審議会 平成 24 年度提言】

- ①地球温暖化対策と生物多様性が相互に連携した取組の推進
- ②エコライフスタイルへの転換と再生可能エネルギー等の普及拡大
- ③環境に関する情報を“見える化”して伝える IT の効果的な活用

#### イ 環境創造審議会 平成 25 年度答申(予定)

これまでの取組への評価・提案を踏まえた「これからの環境行政のあり方」

#### ウ 同時期に見直しが予定されている関連諸計画等との整合

ヨコハマ b プラン(生物多様性横浜行動計画)、横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)、横浜市下水道事業「中期経営計画 2011」、横浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)など

### 3 生物多様性の取組について

ヨコハマ b プラン(生物多様性横浜行動計画)についても、平成 25 年度に具体的な取組の計画期間が終了することから、これまでの取組への評価・検証を行い、計画改定の方角性についてご議論いただき、答申に盛り込んでいただきます。

#### ヨコハマ b プランの概要

##### 《構成と計画期間》

将来像「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」	平成 37 年度まで
6 つの重点アピール(① b-プロモーション、②鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク、③『谷戸』環境の保全と活用、④つながりの森、⑤つながりの海、⑥生物多様性を守り、豊かにするしくみづくり)	平成 37 年度まで
4 つの取組方針(①普及啓発、②保全・再生・創造、③しくみづくり、④まちづくりと経済活動)	平成 37 年度まで
具体的取組(71 事業)	平成 25 年度まで
計画推進体制(市役所率先行動)	平成 37 年度まで
活動単位版(仮称)	平成 37 年まで